

新聞には、家庭科で学ぶ衣食住、安全・安心に関する知識・情報などがたくさん載っており、生きた学習ができ、教科書を補う上で欠かせません。

朝日新聞朝刊の「生活面」は週6日あります。この面のない月曜日には「くらしの扉」という紙面があります。また日曜日には「子育て」という紙面が設けられていて、これらも広い意味で「生活面」といってもよいでしょう。また、火曜日—医療、金曜日—働く、土曜日—かしこいおかず、というテーマで1ページ作って載せています。教師が読んで聞かせるだけでもよいですが、テーマを決めて切り抜きをさせたい。切り抜きの活動では、「要約する」ことが一番大事です。

ところで、中学校の「技術・家庭」は実習が多い教科ですが、週時数が少なく（1年—2、2年—2、3年—1）、実習はほとんどできていないようです。

教科書にはたくさんの調理実習例が載っていますが、そのほとんどが大人の健常者向けの料理です。授業では、乳幼児、病人などの弱者向けメニューに限定してもよいのでしょうか。朝日新聞朝刊の生活面に毎日掲載の「料理メモ」、土曜の生活面「かしこいおかず」、土曜別刷り「気がるにもてなし流」などを参考にして、風邪で寝込んでいる両親や祖父母らを想定した料理、あるいは離乳食に挑戦させ、レシピと完成イメージ図を画用紙1枚にまとめさせます。投票で1点選び、授業の中で実際に調理を行うとよいでしょう。高血圧の人向けなどとテーマを決めることが大事です。

ある調理師専門学校で行う最初の調理実習は「野菜炒め」で、その理由はさまざまな野菜の切り方と包丁の扱いを学ぶためだそうです。また、調味料（砂糖・塩・酢・醤油・味噌）の使い方、味噌汁の作り方、だしの取り方など料理の基本も教えます。料理は美味しく作ることも大切ですが、安全・安心に配慮することが何よりも大切で、食品添加物、塩分などの知識・知恵を授けていきたい。

マンションの広告や住宅販売のチラシなどをもとにして、バリアフリーの家、乳幼児に安全に配慮した家の設計図を作る。高齢者・介護の問題などを社会面の記事から探す。生活上の弱者、例えば高齢者や車椅子使用者、目や耳の不自由な人、乳幼児などのうち、ある一つのことに焦点を絞って授業に取り組むことを勧めたい。弱者を理解することは社会で生きる上でとても大切なことです。

＝紙面は東京本社発行朝刊に基づく
(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)